

女性の衣服形態に対する色彩の適合性に関する女子短大生の認知
 (第3報) 適合色を色相別、色調別に集計した場合
 梅花短大 ○川端澄子 鳴門教育大 藤原康晴

1)

目的 前報において、女性の衣服形態(6体)に対する色彩(JCC40 カラーカードによる40色)の適合度を女子学生に判定してもらい、各衣服形態に適合する、あるいは適合しないと認知されている色彩があることを報告した。本報はそれらの適合色、不適合色の出現度数を色相別、色調別に集計を行い、その度数分布に統計的な違いがあるかどうかを検討した。

方法 女子短大生(106名で1992年9月教室内)が各衣服形態に対して「もっともよく適合すると思う色彩」、「その次に適合する色彩」、逆に「もっとも適合しないと思う色彩」、「その次に適合しないと思う色彩」を選択してもらった。各々の適合色と不適合色を11の色相別および5つの色調別にまとめ、度数分布を求めた。それらの度数分布に対して χ^2 検定を行った。

結果 提示した衣服形態のシャツドレスに適合すると判定された色を11色相別に集計すると、ピンク系15.1%、レッド系4.2%、オレンジ系6.1%、ブラウン系6.1%、イエロー系11.8%、イエロー-グリーン系2.4%、グリーン系3.3%、ブルー系2.4%、ブルー系31.6%、パープル系5.7%、チャール系10.8%となり、不適合と判定された色の色相はそれぞれ7.5%、13.7%、4.7%、11.3%、5.7%、12.7%、10.4%、0.9%、2.8%、14.2%、16.0%であった。その度数分布から χ^2 値を求めると適合色の場合172、不適合な場合の値は59となり選択された色相の頻度に違いがあることがわかった。他の5つの衣服形態に判定された適合色、不適合色の色相別の頻度においても統計的に違いがあった。各衣服形態に判定された色彩を5つの色調別に度数分布求め、検定したところ適合色調、不適合色調のいずれの頻度にも違いがあった。

1) 川端、藤原; 日本家政学会第45回大会研究発表要旨集、218(1993)